

KSKP



障害者情報クラブ ニュース 12

1998.12.25

車いす利用者が未来をつくる・・・かな?
共に開こう!!! 福祉のとびら

いよいよあと2年あまりで21世紀。新世紀を迎える2001年が、障害を持つ者、そしてその関係者にとって希望多き節目となるように、福祉のとびらを未来に向かって大きく開かなければなりません。

一方で、新世紀をひかえた2000年に介護保険制度がスタートします。しかし、この介護保険は多くの課題を抱えています。中でももっとも大きな問題は、果たして介護保険によって人間らしい生き方ができるのかどうかということです。

生きるということは、ただ寝て、食べて、排泄をすることではありません。生きるということは、地域社会の一員として、いきいきと暮らすことです。

今、介助を必要とせず暮らしている人も、年をとったり、何らかの理由で障害を持って手助けが必要になったとしたら・・・そして、そのとき、「あなたに対するサービスはこれとこれしかない。だからその中で我慢しなさい」と言わわれたら・・・。

現実に、現段階で考え



代表 井上きよし

られている介護保険の制度には、外出や社会参加の保障は含まれていません。つまり介護が必要になった人は、家や施設で生命を維持するだけになる可能性が大きいのです。

さて、わたしたちは、

発行人
一九八四年八月二十日第三種郵便物認可

毎日発行

額価三百円

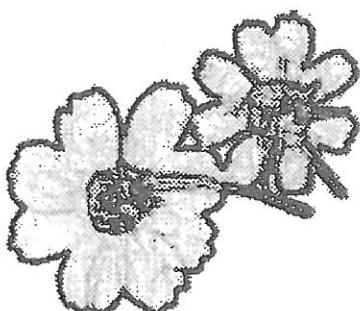
緑橋グリーンハイツ1F

アド企画

自分らしく生きるために、長い間地域の人々と共に努力をしてきました。また、自分たちの生活をより豊かにするために、行政への働きかけもしてきました。今、全ての人々に対する福祉をすすめるために、これらのマニュアルを活用するときが来たような気がします。

わたし自身も、今こそ役に立ちたいと考え、公職を辞して新たな出発をする決意を固めました。共に21世紀に豊かな福祉社会を築こうではありませんか。（代表）

SJC



障害者生活支援

事業のゆくえ

どうなる！？ 宝塚市 障害者生活支援センター

1998年10月1日、宝塚市障害者生活支援センター（以下、「支援センター」と略す、市町村障害者生活支援事業）がオープンしました。しかし、市町村障害者生活支援事業（以下、「支援事業」と略す）を受託した社会福祉法人の中には、目的通りに事業が展開されておらず、単なる人件費補助に使われている先例が多いという報告がされています。それを考えると先行きの不安はぬぐい去れないです。

宝塚市の市町村生活支援事業への道のりは1997年1月の学習会から始まりました。それまで、自立生活センターの準備・研究を始めていた障害者情報クラブにとっては、それは青天の霹靂

でした。なぜなら、「支援事業」というものは、そもそも自治体の福祉事務所では障害者へのサービス提供がお仕着せ型になり、当事者・利用者としての障害者が望むものからかけ離れたものになっていたために、当事者主体の自立生活センターでなければ抜本的な問題解決にならないと考えた厚生省が打ち出した補助事業であったはずですから。しかし、どういう訳かそこに参加していた市役所を含めたほとんどの関係者にはそのような意識はありませんでした。

その後、なぜか社会福祉協議会が事務局となって、約半年にわたって基本計画作業部会がおこなわれました。この作業部会は、宝塚市、宝塚市社

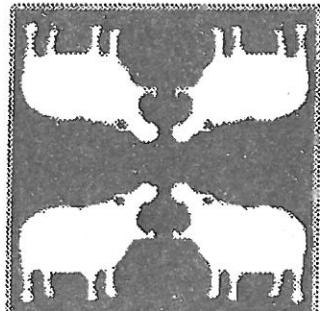
会福祉協議会、「支援事業」に関心のある団体と障害者情報クラブのメンバーを中心としてすすめられました。その間、障害者情報クラブでは、桃山学院大学の北野誠一先生をお招きして学習会をもったり、東京などの先進地を視察して報告書を作成するなど、積極的に研修を進め、その成果を作業部会に生かしてきました。ところが、8月中間報告を行いこれから集約をして準備委員会を立ち上げようという段階で作業部会が召集されなくなり、5ヶ月後の

1998年2月に突然、作業部会の答申が反映されないまま準備会が召集されました。作業部会では、準備会の構成を重度障害者を中心に考えていましたが、実際には全身性の重度障害者は1名しか参加できませんでした。

準備会は月1回のペースで開催されましたが、作業部会の中間報告さえ知らないようなメンバーがいたために、内容は中

間報告どころか作業部会以前の段階へ逆戻りしました。この時点で、障害者情報クラブ等が半年かけて作り上げた作業部会の内容は水泡に帰したのです。その結果、準備会のふたをあけてみると、事業の根幹で自立生活プログラム不要論まで飛び出す始末でした。議論の末、運営要綱には『運営委員長は障害者とし、運営委員の過半数は障害者とする』と明記されることになったものの、結局、人事権、予算編成の決定権は社会福祉協議会のものとなりました。しかし、この時点では、社会福祉協議会は『実質的な運営は運営委員会に権限がある』と言っていました。そして事業内容については、ほとんど審議されないまま運営委員選出の時期を迎えることになりました。

運営委員会は17名の運営委員（他にオブザーバ3名）からなり、そのうち障害者は過半数の10名を占めています。障害者情報クラブから



は、井上きよし、吉川克之の2名と当クラブ役員の中山君江（視力障害者協会を代表して）、当クラブ会員の藤原隆文（肢体障害者協会を代表して）の4名が、参加しています（運営委員長は井上きよし、副委員長は藤原隆文）。

1998年10月2日に支援センター開設記念式典が開催されました。市や社会福祉協議会の関係者などが集まっているところで、ある社会福祉協議会職員は驚くべき発言、いや予想通りの発言をしてくれました。「当センターの実質的な運営主体である社会福祉協議会。。。」と全員が注目する中で堂々と言い放ったのです。「実質的な運営は運営委員会に権限がある」と1ヶ月前に言った、まさにその人が。

そんな中、朗報もあり

ます。支援センター職員4名のうち2名が当クラブ会員なのです。1名は会員で脊髄損傷の中山猛、もう1名は当クラブのソーシャル・ワーカー井上みえです。障害者は結局中山1名でした。運営委員会にはなんの打診もなく決められた人事ですからどうしようもありません。

混乱の中のオープンとはいって、「市町村障害者生活支援事業」がどういう経緯で国の施策としてつくられたのか、この事業に関係しているものはもう一度認識すべきです。「支援センター」は宝塚市や宝塚市社会福祉協議会に使われるだけの下請けであってはなりません。一日も早く障害者が主体的に運営できる「支援センター」になるように、宝塚市は独立した機関としての予算措置をとるべきだと考えます。

しかし、こんな状況だからといって、スタートしてしまった以上、放つておくわけにはいきませ

ん。障害者情報クラブでは、「障害者の自立生活に関するニーズ調査」や「ピア・カウンセリング集中講座」、「アテンダント養成講座」などの事業を企画、資金、スタッフまで提供して、支援センターの体制を支えています。先発の事業をやっているところはさぞ苦労をされたことでしょう。

それでも動き出してしまったものを止めるわけには行きません。なんとか軌道修正を繰り返しても、宝塚市障害者生活支援センターが本当の意味で障害者の、そして障害者のためのセンターになるよう努力するだけです。（役員会）**SJC**

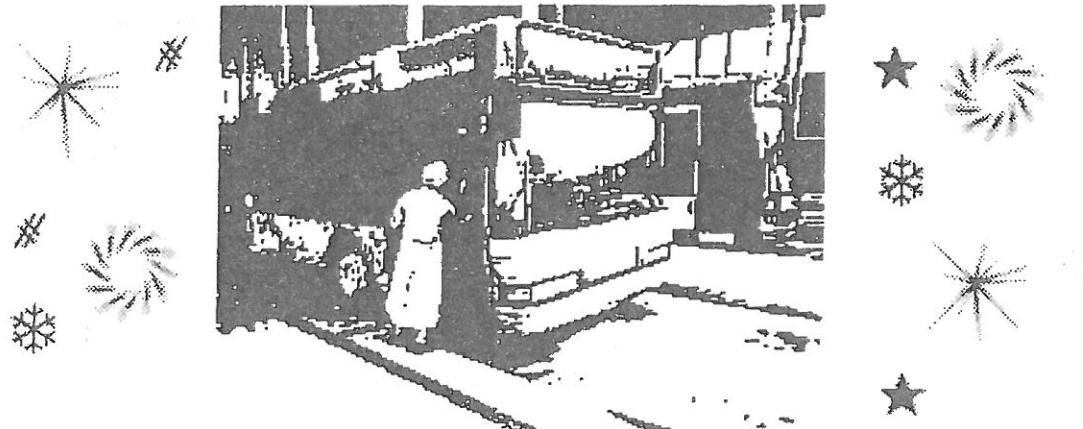


事務局長（修正後）

宝塚にも走るんや
ノンステップ・バスが

宝塚市の肢体障害者・高齢者に送られる1998年のクリスマス・プレゼントはノンステップ・バスかもしれません。

皆さんは「ノンステップ・バス」をご存じですか？ 皆さん知っているバスは、乗り降りするとき2段ないし3段の階段を「よいこらしょ」と昇ったり降りたりしなければならなかったのではないか？ 車いすを利用していたらもちろんのこと、つえをついたりしていたらあの階段は嫌になりますよね。あの階段が嫌でバスに乗らな



いという人も多いのでは
ないですか？ ノンステ
ップ・バスというのは、
車高を下げたりサスペン
ションを調節したりし
て、歩道からなら段差な
し（ノンステップ）で乗
り込めるようにしたバス
のことです。

宝塚市の今年の予算の
片隅に「ノンステップバ
ス導入 約1000万円」
という文字を見つけてか
ら9ヶ月が過ぎようとし
ています。9月には試乗
会があり、当クラブから
は井上きよし、藤原隆文
(肢体障害者協会を代表
して)、坂上正司の3名
が参加しました。中乗り
中降りで、プラットフ
ォーム(歩道)との間は
乗降口から引き出される
渡し板で隙間を解消、車

いす固定スペースは2台
分。実際に乗ってみる
と、揺れもなく、それ
までなかった実感が徐々
に湧いてきました。

ノンステップ・バスを
実際に運行するのは阪急
バスで、宝塚市はその購
入費助成をすることにな
ります。導入されるのは
利用者数などを考慮して
中型が1台になります。
長寿福祉課の話では、い
よいよクリスマス前後か
ら運行が始まることにな
ります。このニュースがお手元に届く頃には、
もう走っているかも知れ
ませんね。

平日の運行本数は「阪
急逆瀬川駅前～阪急バス
宝塚営業所前(阪急山本
駅前路線の途中まで)」
4往復と「阪急逆瀬川駅
前～宝塚市総合福祉セン

ター前」4往復、日曜・
祭日は「阪急逆瀬川駅前
～宝塚市総合福祉セン
ター前」4.5往復。営業
所前行きは途中にある市
立病院の利用者を主に考
えてているようです。

これで、交通マイノリ
ティの障害者・高齢者に
とって不便な立地条件に
あった総合福祉センター
や市立病院が多少は利用
しやすくなるでしょう。

来年度、阪急バスには
宝塚市内で新規導入予定
はないそうですが、西宮
や芦屋での導入計画があ
るということで、引き続
き宝塚市としても買い換
え車両についてノンステ
ップ・バス導入を働きか
けていく予定だそうです。
もっと増えたらいい
なぁ。（研修室街づくり
・交通環境担当） SJC

ピア・カウンセリング

集中講座

さかうえただし

10月30日（金）～11月1日（日）の3日連続で宝塚市総合福祉センターにおいて「ピア・カウンセリング集中講座」を開催しました。

受講希望者が定員を大きく上回りましたので、宝塚市障害者生活支援セ

ンターへ登録されている方を優先して選考させていただきました。また、本来なら宿泊を伴う講座なのですが、どうしても宝塚市内で20名程度の障害者が宿泊できる研修施設が見つからなかったので、通いの講座にさせていただいたため、遠方からの受講希望者を結果

としてお断りすることになりました。ご迷惑をおかけしました。

講座に関しては全く初めてだったために企画運営は、全国自立生活センター協議会のピア・カウンセリング委員会や講座リーダーの大友章三氏（自立生活援助センター・とよなか）、サブリー

ダーの長谷川利恵氏（ばくの家）にご協力、ご指導をいただきました。

さて、講座の内容に関しては、講座の性格上、プライバシーに関



ピア・カウンセリング集中講座・2日目懇親会のひとコマ

わる部分が多いため報告することはできませんが、成功であったと思います。

受講者とスタッフ等の関係者が唯一交流をもつことができる親睦会では、生まれつきのエンターテイナー中山君江さんと藤原隆文さんが司会進行を務めたビンゴ・ゲームが盛り上がりを見せました。

3日間通してハプニングらしいハプニングがなかったので、多めに待機してもらったスタッフの方々も手持ち無沙汰なほどでした。主催者としてはなによりでした。

これを機会に、ピア・カウンセリングの重要性をご理解いただき、ピア・カウンセリングに携わる方が少しでも増えることを期待しています。

後援：宝塚市、宝塚市社会福祉協議会、宝塚障害福祉市民懇談会、全国自立生活センター協議会

(報告：研修室長代理)

SJC



誰もが使える交通機関を求める 全国大行動 兵庫行動 船上ピクニック

～車いすで船に乗
ってみたい・・・
(電波少年風)～

うめ吉

毎年秋に定着しつつある障害者インターナショナル(DPI)日本会議呼びかけの「誰もが使える交通機関を求める全国大行動」ですが、今年は初めて兵庫でもやってみようということになりました。兵庫行動の呼びかけ団体は障害者情報クラブも参加している「バリアフリー社会を実現する会」(第2回障害者政策研究全国集会・神戸大会・街づくり分科会運営スタッフの残党)で、月に一度定例会や、兵庫県・兵庫県立まちづくり工学研究所と合同で研究会を

おこなっています。

1998年10月10日

(土)、薄曇りで、そう暑くもなく、関西では久しぶりの雨のない休日になりました。

前日のJR西日本神戸支社交渉に引き続いた行事でしたので参加数が気になるところでしたが、約20名の参加があり、兵庫行動の第一回目としてはまあまあの集まりだったと思います。障害者情報クラブからは、土井克哉、中道望、光森千早、坂上正司の4名がスタッフや参加者として参加しました。

内容は4、5名づつのグループでまわるスタンプラリーです。JR神戸駅を出発し、チェック・ポイントは神戸ハーバー

ランドのオーガスター・プラザ、同じくモザイク、神戸港中突堤中央ターミナル、神戸港観光船ルミナス神戸2、南京町、そしてゴールはJR元町駅東口。チェック・ポイント間の移動はどこをとってもいいので、全く予想外の方向から来るグループや、エレベータを探して四苦八苦するグループもありました。また、途中で気の利いたものを買ってもらい、それを後で賞品にしてくじ引きをするので、寄り道もしなければならないようになっています。

ルミナス神戸2は、車いすでは神戸オリエンタルホテル2階のチケット・カウンターから直接乗り込めないので、一旦エレベータで地上に降りて、改めて簡易エレベータで乗船デッキにはいるという面倒なことをしなければなりません。簡易エレベータは、電動車いすでも2台は乗れますが、屋根がないので雨の日は確実に濡れます。それに、どうも貨物用を使い回ししているようでした。船内は4層になっていて、各階は段差はないですが、床がほとんど絨

毯で移動し辛かったり、各階は乗務員がかつき上げるということなので、快適とまではいきません。身障者対応トイレは1基、乗船デッキから乗り込んだフロアにあります。食事は予約が必要で、乗船したフロアでないフロアですることになるようです。周遊コースは、神戸港中突堤から明石海峡大橋往復の約2時間。乗務員やレストランのスタッフの対応はいたってよかったです。介助者とばかり話そうとするにはいさかうんざりさせられました。

下船後は、船で行われた結婚式の新郎新婦の門出につきあつた後、南京町を散策してゴールの元町駅へ。

電動車いすのスピードが速くて、チェック・ポイントのスタッフより早くチェック・ポイントに着いてしまったり、ルミナ



ルミナス神戸2の前で記念撮影

ス神戸2の乗り場を本当
はオリエンタル・ホテル
の2階なのに中央ターミ
ナルだと思っていたグ
ループが多くて危うく船
に乗り遅れそうになった
りとハプニングもありま
したが、事故もなく終了
しました。JRから神戸
港へのルートのアクセシ
ビリティの良い点・悪い
点を体験してもらい、新
しくできた神戸港中央
ターミナルと同時に船と
いう交通機関にも目を向
けてもらうという目的は
達成されたと思います。
あとは、参加された方が
たが地元へ帰って、この
経験を生かす活動をやっ
て欲しいものです。（研
修室街づくり・交通環境
担当） SJC



財団法人キリン福祉財団

土井利一 副事務局長が来訪

坂上正司

心からこういう研究を
やってみたいと思う気持
ちは通じるものなんですね。障害者情報クラブの
今年度の二大事業のひとつ「重度障害児・者への
ソーシャル・サポート・ネットワーク確立のため
の調査・研究」がキリン
福祉財団の助成を受ける
ことになりました。「少
々金がかかってもここを
通らなければ自立生活セ
ンターとは名乗れない」と
いう意気込みで見切り
発車をしかけているところへ届いた「助成決定」
の朗報は、少なからず役
員を歓喜させました。

そして、キリン福祉財
団の土井利一 副事務局長
が8月27日（木）にILセ
ンターに来られました。障
害者情報クラブは井上
きよし、中山君江、中道
望、坂上正司でお迎えし

ました。今まで、いろい
ろな財団から幾度となく
助成金をいただいていま
すが、実際に事務局の方
が活動を見に来られたの
はこれが初めてです。助
成金の交付が決定された
あと事業の完了まで放っ
ておいてもらえるのはあ
る意味で楽なのかも知れ
ません。しかし、助成対
象となった自分たちの事
業が、あるいは助成対象
事業以外の活動がどう評
価されているのかわから
ない今までいるのは非常
に不安です。だから、実
際に来て、見ていただけ
ると、自分たちに、自分
たちの活動にどれだけ興
味を持ってもらっている
かがわかりますし、それ
が自信になります。

研究完了までもうひと
いきです。がんばって良
い研究成果を得たいと思
います。（研修室長代
理） SJC

こちらILセンター・こちらILセンター・こちらILセンター

このコーナーは、障害者情報クラブの作業所部門・ILセンターからのお知らせや事業・活動の紹介です。（ILセンター運営委員長）SJC-IL

ピア大阪

訪問

10月19日（月）、代表・井上、運営委員長・坂上、以下8名で、先発の自立生活センターである「ピア大阪」を大阪市東住吉区に訪ねました。



ILセンター局長中山君江が平下氏に建物の説明を受けている

応対していただいたのは病気療養中の東谷事務局長に代わって事務局次長の平下氏でした。事業内容は、イメージしていた自立生活センター像とは違い、障害者生活支援事業の枠内で、また自治体の外郭団体の枠内で活動が制約されてもがいている姿が見えてきました。

以下は、参加者の感想の抜粋です。（ILセンター運営委員長）

中村かおり

バス停が目の前なので、バスを利用する人にとっては便利な場所にあると思いますが、鉄道のどの駅からも少し離れていてちょっと不便だと思いました。

宝塚の総合福祉センターもやはり駅から離れていますが、こういう施設だから便利な場所に建てるか、あるいは誰でも利用しやすい移送サービスを整備する必要があると思います。

ピア大阪は、やはり宝塚よりも障害者生活支援事業が先にすすんでいて、早川記念福祉社会館とピア大阪の役割もきっちり別れている一方で体制的にも非常に整っていると感じました。また、予算が市からある程度まわってきているので、スタッフの人数も多いし、講座を無料で開くだけの事業費もあり、自立生活体験室も安くできるという点も感心し、うらやましく思いました。

ピア大阪は全体的に規模が大きくて、運営委員会も50人近くで構成されています。宝塚はそこまでの規模はありませんし、支援事業についてはまだまだの状態です。しかし、それだからこそピ

こちらILセンター・こちらILセンター・こちらILセンター

ア大阪など様々な先発のセンターのシステムを調査、研究した上で、良いところは取り入れて、悪いところは真似しないように宝塚の地域性を生かしたシステムを作れるのだと思います。（ILセンター健常者スタッフ）

新井裕子

話が長かった。
和室が広かった。
トイレも広かった。
電車を使ってまた行きたい。（ILセンター障害者スタッフ）

SJC-IL

アテンダント 養成講座

右表の日程でアテンダントの養成講座をおこないたいと思います。

対象：

障害者情報クラブ・ILセンターのアテンダント登録をしていただける方

場所：

1～4については宝塚市立総合福祉センター

5についてはILセンターから出かけてもらい

日程	内容
1 1999年 2月13日(土)	・オリエンテーション ・アテンダントについて ・視力障害者について
2 2月14日(日)	・車いすの障害者について
3 2月27日(土)	・介助をされる立場から 「5人の障害者をかこんで」
4 2月28日(日)	・救急救命法
5 3月7日(日)	・お出かけ実践(外出、食事)

講師の先生、詳しい内容などは未定です。

参加者は1月から募集する予定です。やる気のある方、ぜひ参加してくださいね！！



前回のアテンダント養成講座から

ます。

詳しくはILセンターにお問い合わせ下さい。
申込書と詳しい内容をお送りします。

連絡先：障害者情報クラブ・ILセンター（担当：中道、中山、廣内）

SJC-IL

こちらILセンター・こちらILセンター・こちらILセンター

やってみませんか？

アテンダント

障害者が自立するにはアテンダントの協力が必要です。貴方もアテンダント登録して下さい。

アテンダントとは有料介護者のことです。障害者が自分のために飛び出しますには貴方の暖かい手が必要です。待ってます。アテンダントに登録して下さい。

アテンダントになるには障害者情報クラブの正会員であることが必要です。会費（3,000円）とアテンダント登録料（3,000円）合計6,000円をILセンターに収めていただくことになります。

お待ちしています。

TEL 0797-82-2233

ILセンター

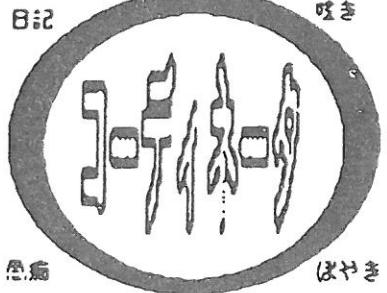
担当：中道 中山 廣内

SJC-IL

利用登録者募集

アテンダント

使ってみよう



呉市

呉市

ばやき

中道 望

障害者情報クラブ・ILセンターでアテンダントの養成講座を昨年度末に行い、アテンダント派遣を98年3月にはじめてからもう1年になろうとしています。

ILセンターではアテンダント派遣事業のコーディネータが3人います。廣内、中山、中道です。ほとんど廣内、中山でコーディネートしています。

はじめはわからない事ばかりで多くの問題にぶつかりました。3人がコーディネートにかかわっているので、お互いの連絡もうまくいかず、もう戦争前夜のような雰囲気の時もありました。また、利用登録者の方との勘違いで話がややこしくなったり、愚痴の一つもこぼしたくなるような事

アテンダント利用者を求めます。障害者の皆さん、悩んでいませんか？

自分の持っている力をとじこめていませんか？

アテンダントを利用して新しいじぶんを見つけてください。自分のために自分の殻を破って大きくなって飛び出してみませんか？ アテンダント利用者になって自立の扉を開けて下さい。

サアあなた、ILセンターへTELして下さい。

アテンダント利用者登録は、アテンダント登録の方法と同じです。

SJC-IL

こちらILセンター・こちらILセンター・こちらILセンター

もありました。連絡の取りにくい人にはFAX連絡を入れるようになったのは、今では当然だと思いますが、それを思いついた時は「すごく画期的だ！」などと思っていました。そうして今ではコーディネートもある程度やり方がわかってきたし、なれてきたのでそんなに問題はありません。

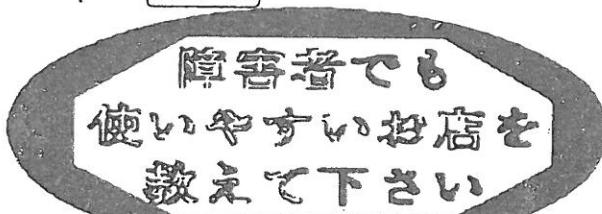
しかし、ひと月あたりのコーディネート件数が5～6件と少ないので非常に寂しい状態です。だから「コーディネートになれてきた」といってもケースが非常に少なくては、「なれてこない方が不思議！」とも思っています。

利用登録者、アテンダント登録者は少ないと伝え、ただ単に募集するだけではダメなので、今年度もまたアテンダントの養成講座を考えています。日程は2月の土日で全5回で予定しています（本紙11ページを参照してください）。また、

アテンダントが増えても利用者がいなければ意味のないことでもありますし…。

アテンダント派遣をはじめて、もうすぐ2年目になります。これからはもっと利用者とアテンダントを増やして、たくさんコーディネートをしていきたいものです。

SJC-IL



私たちILセンタースタッフは、宝塚市内やその周辺の障害者でも使いやすいお店のハンドブックを作りたいと考えています。障害者、特に車いすの人にとってお店を利用する上で一番ネックになるのは、身障者対応トイレです。障害を持っていても健常者と同じようにゆっくり楽しく食事をしたり、お茶を飲みながらお喋りしたいのですがなかなか身障者対応トイレのあるお店を見つけることができません。

訓練センターのあった玉津には、リハビリを受けている身障者、車いすの方がたくさんおられ、車いすでも入れるお店もいっぱいあり、中華料理、お好み焼き、焼肉、イタ・メシと自分の好きなものを友達と一緒に食べに行く事ができます。車いすでも入れるカラオ

ケのお店もあり、日々の訓練で溜まるストレスもうまく発散する事もできます。

宝塚市にもそういうお店があれば車いすの方も、他の障害をお持ちの方もどんなに喜ばれる事でしょうか。皆様ご存知のそんなお店を教えて頂けませんか？一軒でも多く情報を寄せ頂きたくお願いいたします。

連絡先はILセンターです。FAX、TELなどいずれの方法でも結構です。来年度中には障害者ハンドブック（仮名）を制作する予定ですのでどうぞ宜しくお願ひ致します。SJC-IL

こちらILセンター・こちらILセンター・こちらILセンター



ステンシル例

障害者スタッフ 新井裕子・作

只今、ILセンターでは印刷の仕事を受け付けております。

それぞれに障害の違う人たちが自分たちで出来るいろんな仕事をしていきたいと明るく元気にはんぱっております。みんなの力を合わせて出来るだけ安く丁寧な仕上がりをモットーに機関紙の印刷、チラシの印刷、はがきの印刷などご相談に応じております。ただし、モノクロのみ、10枚以上でお願いしております。

ILセンターをより身近なものにするためにも、より大きなものにするためにも、お仕事受け付けておりますのでよろしくお願い致します。

SJC-IL

印刷代金表

片面用

枚数 \ サイズ	B5	A4	B4	A3
100~	4円	4円	5円	6円
50~99	5円	5円	6円	7円
10~49	6円	6円	7円	8円
ハガキ代金	片面；10円 両面；20円（ハガキ代別）			

両面

枚数 \ サイズ	B5	A4	B4	A3
100~	6円	6円	7円	8円
50~99	7円	7円	8円	9円
10~49	9円	9円	10円	11円

こちらILセンター・こちらILセンター・こちらILセンター

【スタッフ放言】

中村かおり

皆さん、はじめまして。中村かおりです。ILセンターが開所したのは昨年の10月ですが、私は常勤スタッフの中道君とともに、センターの準備段階から少しだけですがお手伝いをし、現在に至っています。

ILセンターに来る以前から、情報クラブの行事などで、様々な障害を持った方々と接する機会はありました。同じ屋根の下で仕事をするとまた勝手が違います。学校などと同じで、1日の中でいちばん活動的な時間帯の生活をともにするわけですから、正直言って「すべて穏便に、何事もなく」というわけにはいきません。障害者スタッフの皆さんには、多くの苦労を重ねて歩んでこられている方々なので、意見のぶつかり合いも多々ありました。でも、ただぶつかり合うだけではなく、ミーティングなどできちんとそれ

ぞれの意見を言い合うことで、確かな結びつきがスタッフの中に生まれてきたと思います。

また、私自身、障害を持つ人達のことを理解しているつもりでも、いつのまにか健常者の立場で物事を考えてしまっていることがあります。その点を指摘してもらう度にまだ未熟だなー、と勉強させてもらってばかりです。

ILセンターに来ている人達は、自分なりに出来るを探しながらがんばっています。センターの中ではまだまだ若輩者の私が言うのもなんですが、センターに来ている障害者スタッフの一人一人が1年前とは明らかに成長していると思うし、誰が欠けても「ILセンターらしさ」がなくなってしまうと思います。それだけ、みんな大切なメンバーなんです。皆さんの明るい姿に、私も刺激を受ける毎日です。

ILセンターが開所して1年強。ようやく軌道



に乗りかけたといっても、このセンターはまだまだ「ひよっこ」の状態です。皆さんのご協力なしには発展していきません。これからもどうぞよろしくお願ひします。

(健常者スタッフ)

廣内隆史

「今日は遅いなぁ」「ゴミを出してたんで・・・」

最寄り駅の駅員さんとのこんな会話から僕の一日が始まります。施設にいた7、8年前には想像すら許されなかったことです。

僕が施設を出ようと思ったきっかけは、「第9会車いす市民全国集会」(1989年)に参加して、僕より重いの障害をもっている人たちがいきいき

と地域で暮らしている姿を見たからです。そして、施設での暮らしがいかに退屈で、世間離れしたものかがわかったからです。しかし、施設を出たいと思っても、難関がいくつもありました。

まず、親の説得。これが結構大変でした。僕が施設にいると、親は安心してくらしていますが、僕が施設を出ると心配します。親の気持ちを思うと自分の思いをあまり強く言えませんでした。決心が鈍るときもありましたが、このままでは自分が駄目になってしまうと思い、挫けず親を説得し続けました。

あるきっかけで親の問題は解消しましたが、施設から出てもいろいろなことがありました。西宮のマンションを追い出されたり、交通事故にも遭いました。

今、行きたかった高校にも行き、ILセンターにも通うことができて、充実した生活を送っています。（障害者スタッフ）

SJC-IL

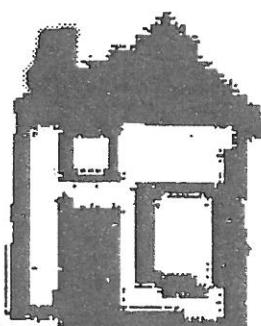
こちら→セントラル→こちら→セントラル→こちら→セントラル

バリアフリー モデル住宅 (井上治助氏邸) 一般公開

吉川克之

7月19日（日）・20日（月）の2日間、井上聖代表の御両親の家（宝塚市伊子志）がバリアフリー・モデル住宅として一般公開されました。これは御両親の御厚意によるもので震災により壊れた自宅を建て直すに際し、バリアフリーにしたいと様々な工夫をされました。そこでそのバリアフリー部分を一般の方にも見てもらって参考にしてもらえればと言うことで一般公開をされました。

私も見学させて頂きましたが、最近手すり等を付けた位でバリアフリー住宅と言っているものが



多い中、井上氏邸は本格的なバリアフリー住宅であると言えます。

まず家に入る為に玄関横に車いす用のリフトが設置されています。家中はもちろん敷居等の段差はなく、風呂・トイレも車いす対応です。また、スイッチも低い位置に取り付けられ、扉もすべて引き戸式になっているのも車いす利用者にとって優しい配慮です。2階へは手すり付き階段のほかエレベーター（定員4人）でも上がることができます。私が特に感心したことはトイレにシャワーが設置されていることです。

施工にあたった田中住建株式会社もこの様に本格的なバリアフリー住宅を手がけるのは初めてで、井上氏邸での経験を活かしてこれからもバリアフリーについて勉強していくみたいと言う事ですので大いに期待したいと思います。

当日案内して下さった皆様有り難うございました。（会計局長） SJC

出張美容サービス

はじめまして私、多田潤子と申します。平成8年から個人で出張美容サービスの仕事をしております。出張美容サービスではこれから迎える超高齢化社会に向け、住み慣れた地域で少しでも快適な生活を送って頂けるようにと、お年寄りや自宅療養されている方、障害のある方などを対象に自宅や施設・病院などにお伺いし洗髪や散髪をする活動をしております。中野区の友愛ホームへはボランティアで月に一度散髪にお伺いしお年寄りに大変喜ばれております。また、利用者の方に安心してご利用頂けるようにと昨年ホームヘルパー2級の資格も取得しました。

今年からは日本国内どこででも出張美容サービスが受けられるようになり・美容師さんの登録制度をはじめました。これは国内に住む利用者の方から出張美容サービスにお電話頂ければお近くの理・美容師さんと連絡

を取り紹介するといったサービスです。（現在登録者の居る地域：千葉・東京・岐阜・愛知・大阪・奈良・福岡）カットが目的でなくてもいいんです。一緒に楽しい時間を過しませんか。

普段は家族が散髪をしている方にも理・美容師さんと接する事で新しい出会いや発見・コミュニケーションが生まれることは大変意味のある事ではないでしょうか。また、料金もご利用し易い設定になっておりますのでお気軽にご利用頂きたいと思っております。

<参考>

料金：カット

4000円など

出張費：無料

(片道1時間以内)

交通費：実費

(東京都中野区から)

詳しい内容はホームページでもご覧になれますので是非一度ご覧になって下さい。

[http://
www.bekkoame.ne.jp
/~runna](http://www.bekkoame.ne.jp/~runna)

●出張美容サービス

多田潤子

TEL : 080-440-1786

E-mail : runna@
sco.bekkoame.or.jp

SJC

日曜日 ボランティア に来てくれませんか

私は、尼崎市内の小田高校の近くにすむ全身麻痺障害者の曾我部教子といいます。現在、尼崎市立若草中学校に所属し、教育総合センターに勤務をしています。

日曜日に介助をしていただけのボランティアの方を探しています。介助の内容は、薬、お茶を飲ませる。食事を食べさせる。手紙の代筆をするなどの簡単な身辺介助です。2ヶ月に1回くらいの割合で来ていただきます。時間は、3交替制で、AM8:00～AM11:00、AM11:00～PM3:00、PM3:00～PM7:00の都合の良い時間帯。

ボランティアに来て下さる貴女。もっと詳しいことを知りたい人は、下記に電話をして下さい。

連絡先：曾我部教子
(そがべのりこ)

電話：06-482-4894 (夕方6時以降
にお願いします) SJC

1998年度 通常総会

坂上

6月6日（土）、宝塚市総合福祉センターで今年度の通常総会を開催しました。出席者18、委任状33（当時の正会員数73）で総会は成立しました。

中山君江議長の下、6つの議案（1997年度事業報告、1997年度決算報告・監査報告、会則改訂、役員改選・組織改編、1998年度事業予定、1998年度予算）が審議、承認されました。会則は、役員を役職名から幹事に変更、会費変更、文書保存期間の変更がなされ、新役員として井上きよし、坂上正司、吉川克之、中山君江、吉原裕子を選出しました。組織としては、事務局次長職を設け、事務局機能の強化と共に会計局との連携も図りました。また、代表直属で企画室と研修室を設け、代表機関の強化を図りました。

（事務局長） SJC

事務局から

電子メール*

電話・FAX以外にも電子メールで問い合わせにお答えしています。アドレスはsakaue@butaman.ne.jpです。

ホームページ*

1月19日からホームページを立ちあげました。まだ目次程度ですが、これから充実させていきます。URLは

[http://
www.butaman.ne.jp:
8000/~sakaue/sjc/](http://www.butaman.ne.jp:8000/~sakaue/sjc/)
です。また、関西学院大学理学部同窓会のホームページで当クラブへの支援の呼びかけをしています。URLは、
[http://
www.kwansei.ac.jp/
page6/hp/text/hosi2.
htm](http://www.kwansei.ac.jp/page6/hp/text/hosi2.htm)です。あわせてご覧下さい。

マーリングリスト*

正会員向けのサービスとしてマーリングリストを提供しています。正会員の方で興味のある方は、sakaue@butaman.ne.jpまで

メールをお願いします。

アクセス関西

マーリングリスト*

障害者・高齢者に優しい街づくりについてのアンテナ・マーリングリスト「アクセス関西」を一般に提供しています。主に車いす利用者の交通環境・街づくりについての情報交換を目的としています。興味のある方は

sakaue@butaman.ne.jpまで

メールを送って下さい。

【註】*印のメールアカウント、ホームページ、マーリングリストは、BUTAMAN INTERNETより無償提供されています。SJC

会計局から

ご寄付いただいた方のご紹介は、紙面の都合により次号でさせていただきます。

会費

障害者情報クラブの年会費は3000円です。ただし、学生・未成年は1000円にさせていただいている。会員になりたい方は、ILセンターまでご連絡下さい。SJC

事業報告

1998年1月1日～1998年11月30日

【事】：事務局、【IL】：ILセンター、【企】：企画室、【研】：研修室

1月

- 18日 事業 ボランティアフェスティバル・バザー@総合福祉センター
- 19月 広報 ホームページ開設(<http://www.butaman.ne.jp:8000/~sakaue/sjc/>)
- 24土 事業 アテンダント養成講座 第3日 【IL】
- 30金 渉外 身体障害者自立協会が来訪

2月

- 01日 事業 アテンダント養成講座 第4日 【IL】
- 05木 講師 ポボロの会：井上み
- 07土 事業 アテンダント養成講座 第5日 【IL】
- 09月 研修 宝塚NPOセンター勉強会@女性センター：坂上
- 12木 渉外 宝塚自立生活支援センター作業部会
会議 ILセンター運営委員会 【IL】
- 27金～3月1日 研修○ピア・カウンセラー養成講座へ参加@MSA：金城

3月

- 03火 招待 社会福祉大会で表彰：坂上
- 09月 研修 福祉の街づくり関西シンポジウムへ参加：坂上
- 13金～15日 研修 ピアカウンセラー養成講座へ参加@MSA：金城
- 14土 事業 フェスティバルゲート探検 【IL】
- 20金～21土 研修 JL所長セミナーへ参加：坂上、中道
- 23月 委員 神戸港中央ターミナル小委員会へ：坂上、中道
- 24火 委員 中筋JR南区画整理事業まちづくり委員会駅前検討部会：坂上
- 25水 事業 「障害者情報クラブニュース11」発行
- 26木 渉外 明石海峡大橋海上ピクニック参加

4月

- 04土 会議 役員会@井上宅
- 08水 渉外 宝塚市障害者生活支援事業準備委員会@福祉センター：井上き、吉川【研】
- 11土 渉外 宝塚NPOセンター設立フォーラム@リトル：吉原、井上みき、坂上【事】
- 15水 会議 ILセンター運営委員会@ILセンター 【IL】
- 17金 事業 BarrierFree'98(福祉機器展) @インテックス大阪 【IL】
- 25土 会議 役員会@ILセンター
- 28火 渉外 バリアフリー社会を実現する会@メインストリーム協会：坂上、三浦【研】

5月

- 11月 会議 ケーススタディ@ILセンター【研】
- 会議 ILセンター・スタッフ・ミーティング@ILセンター 【IL】
- 13水 渉外 宝塚市障害者生活支援事業準備委員会@福祉センター：井上き、み【研】
- 14木 講師 関西学院大学・障害者問題論@関学大上ヶ原キャンパス：坂上、中道【研】
- 16土 講師 エスピワールの会@ドーンセンター(天満橋)：井上き、み、坂上【研】
- 24日 事業 ILセンター開所披露パーティ@平井児童館
- 25月 委員 中筋JR南区画整理事業まちづくり委員会駅前検討部会：坂上【研】
- 28木 講師 関西学院大学・障害者問題論@関学大上ヶ原キャンパス：坂上【研】
- 30土 渉外 第7回JL代議員総会@岡山市春日町勤労福祉センター：中山、中道
- 31日 渉外 第7回JL代議員総会@岡山市春日町勤労福祉センター：中山、中道

6月

- 01月 会議 ケーススタディ@ILセンター【研】
- 会議 ILセンター・スタッフ・ミーティング@ILセンター 【IL】
- 03水 広報 神戸新聞取材@ILセンター 【IL】
- 会議 ILセンター運営委員会@ILセンター 【IL】
- 会議 役員会@ILセンター
- 06土 会議 1998年度通常総会@宝塚市総合福祉センター
- 会議 拡大役員会@総合福祉センター：井上きみ、吉川、中山、坂上、吉原、中道
- 09火 会議 事務局会@Azw：吉原、坂上 【事】
- 10水 渉外 宝塚市障害者生活支援センター準備委員会@宝塚市総合福祉センター【研】
- 13土 事業 アピア商店会・バザーに参加@アピア3広場
- 15月 会議 ILセンター・スタッフ・ミーティング@ILセンター 【IL】
- 21日 研修 電動車いす試乗会に参加：坂上、眞子 【IL】

1999年新年会 さあ、今年も頑張ろう！

日時：1月16日（土）
11:00～15:00

場所：コミュニティ・ラボ・めふ（パーティールーム）阪急壳布神社駅から徒歩2分の「めふじん」2階

電話：0797-84-2931
(当日はこちらに電話して下さい)

集合場所：現地

集合時間：11:00

参加費：3,000円

* * * * お願い * * * *

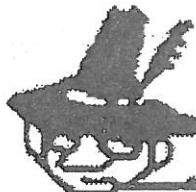
- 当日の介助者は各自で見つけて下さい。
- エレベーターあり
- 駐車場ご利用の人はすぐ光森まで連絡して下

さい。（駐車台数制限）

- スリッパを履いてはいって下さい。車いすの人は、雑巾でタイヤをふいてから入って下さい。
- 身障対応トイレあり
- 当日は全員で準備、片付けをします。
- 食事はこちらで用意します。料理自慢の人は差し入れ歓迎です。（簡単な調理器具あり）

1999年最初の行事です。みんなでパーッといきましょう！

申込方法は郵送かファックスでILセンターまで。また、企画室のなかみちまたはみつもりまで手渡しでもかまいません。**SJC**



編集後記 阪急伊丹駅が5階建ての駅ビル「リイタ」として復興した▼これで、阪神大震災で寸断された鉄道は摩耶ケーブルを残すのみとなった▼京阪神では震災後、駅舎のバリアフリー化が加速している▼その一方で、駅員の数は明らかに減らされている▼阪神では夜間無人駅がなんと多いことか▼阪急でも駅員1名という駅は珍しくない▼そして明らかに人格的な質の低い駅員が増えた▼私の最寄り駅中山はこの2年ほどどうしようもない▼「今、ひとりやから」とそれ違いざまに言われる▼しかし、それは労働環境の問題である▼旅客に愚痴ることではない▼ましてやそれをネタに旅客を危険な状態においたり、不愉快にさせることなど言語道断である▼建物が整備されるかわりに人の心が荒むようでは何をやっているのかわからない▼モノをかえるか人をかえるか、これは永遠の課題なのかも知れない（うめ吉）**SJC**

「KSKP 障害者情報クラブニュース12」1998.12.25

編集者 障害者情報クラブ事務局

編集責任者 障害者情報クラブ事務局長 坂上正司

所在地 665-0816 宝塚市平井2丁目1番10号ハイツ・エフ・オー205号

ILセンター tel.&fax.0797-82-2233

事務局長坂上直通 tel.0797-88-4329 fax.0797-88-0779

mailto:sakaue@butaman.ne.jp

<http://www.butaman.ne.jp:8000/~sakaue/sjc/>

郵便振替 記号14360 番号43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 さくら銀行逆瀬川支店普通預金3566211障害者情報クラブ井上きよし

発行人 関西障害者定期刊行物協会・大阪市城東区東中浜二丁目十の三 緑橋グリーンハイツ1F

アド企画